

米国カリフォルニア州の CFS (Consumer and Family Studies)

プログラムのスタンダードについて

ガンガ伸子 (長崎大学教育学部)

1. はじめに

アメリカ合衆国では、州ごとに教育制度や内容が異なる。学区や学校によっても多様なカリキュラムが選択されるため、家庭科の学習内容に関して全体的な傾向を述べることは困難である。しかし、わが国の学習指導要領のように法的基準性(法的拘束力)をもつものではないものの、家庭科ナショナル・スタンダード (National Standards for Family and Consumer Sciences Education)¹⁾ が学習活動の重要な基準となっている。これを受けて、各州でもスタンダードが作成されているが、州によって職業教育・健康教育・個人や家族などへの力点の置き方が異なっている。なかでもカリフォルニア州のスタンダードは職業教育に重きを置いている²⁾ のが特徴的である。

近年、わが国においても若年層の雇用問題を背景に、教科においてもキャリア教育の実践が進められているので³⁾、早くから職業教育・キャリア教育に重点を置いた家政教育を展開してきたカリフォルニア州のスタンダードは大いに参考になるものと思われる。本稿では、カリフォルニア州教育省によって発行された”Challenge Standards for Student Success: Home Economics Careers and Technology, Grades Nine Through Twelve”⁴⁾ を分析することにより、家政教育プログラムの全体像を把握するとともに中等教育段階 (中学校、高等学校) レベルでの CFS (Consumer and Family Studies) プログラム内容のスタンダードを提示し、その特徴について整理してみることとする。

2. カリフォルニア州の家政教育プログラム

カリフォルニア州教育省 (California Department of Education) によると、家政教育は HECT (Home Economics Careers and Technology) プログラムとして位置づけられている。これは、生徒が労働・家族・コミュニティのなかで積極的かつ生産的なメンバーに育つためのプログラム⁵⁾ であり、図 1 に示すとおり、CFS と HERO (Home Economics Related Occupation) の 2 つの教育プログラムからなる。つまり、家政教育はキャリア教育であり、全米第 1 位 (2012 年全米の 13.0% の GDP を占める。) 経済規模⁶⁾ を誇るカリフォルニア経済を支える労働力を供給するうえで、キャリア教育としての家政教育は重要な役割を果たしている。

HECT 教育は小学校レベル (6 年生まで) において、すでにその自覚を芽生えさせることから始まる。そして、6 年生から 8 年生には、個人のライフマネジメント・スキルと HECT 関連の職業を探求する機会が用意され、高校レベルでは、CFS コースからさらに HERO プ

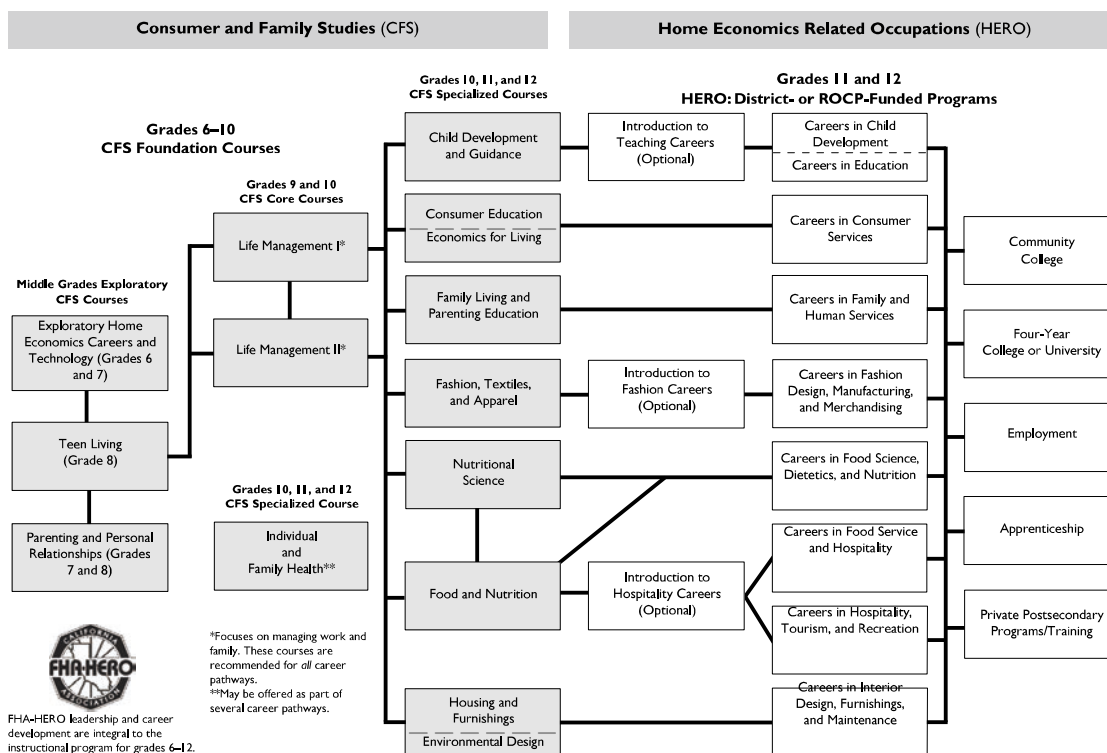


図1 HECTプログラムの全体像

(出典) California Department of Education, "Challenge Standards for Student Success: Home Economics Careers and Technology, Grades Nine Through Twelve", 2000, p.7

プログラムの専門領域に進んでいく。このように HECT 教育プログラムは、CFS、HERO、それと FHA-HERO (HECT 教育におけるキャリア開発プログラムを提供する団体) が一体になって進められるものである。

3. CFS プログラム内容のスタンダード

CFS プログラムは、表 1 に示すように、7 つの領域 (1) 児童発達とガイダンス (Child Development and Guidance)、(2) 消費者教育 (Consumer Education)、(3) 家族生活とペアレンティング教育 (Family Living and Parenting Education)、(4) ファッション、テキスタイル、アパレル (Fashion, Textiles, and Apparel)、(5) 食品と栄養 (Food and Nutrition)、(6) 住居とファニッシング (Housing and Furnishings)、(7) 個人と家族の健康 (Individual and Family Health) から構成されている。それぞれの領域に対して、学習すべきスタンダードが示されている。さらにスタンダードの中身について、コアとなる学習項目とその他の項目に詳しく分けられている。

カリフォルニア州教育省が、このような CFS プログラム内容のスタンダードを示した目的は、教師らが時流にあったカリキュラムを構築するためのガイドを提供することであるとともに、教師が学問分野を超えたプロジェクトを計画するために、他の分野の教師と共同するためのツールとなりうるためである。また、各教育レベルにおいて、むだに内容が重複することを避けるという意味がある。さらに、現職の教員のスキルアップと知識向上のためや、将来教員を目指す者が良い教育者になるためにも、適切な専門能力開発を指導するという目

的もある。

次に、各領域のスタンダードとその内容を説明していく。

表1 CFPプログラムの領域とスタンダード

領域	児童発達とガイダンス	消費者教育	家族生活とペアレンティング教育	ファッション、テキスタイル、アパレル
スタンダード	1. 責任ある育児	1. 消費者経済	1. 家族と社会	1. アパレルと行動
	2. 子ども理解	2. 消費者の意思決定	2. 家族の貢献	2. デザインの要素と原理
	3. 胎児の発育	3. 消費者の購買	3. 個人の発達	3. 色彩理論
	4. 子どもの成長と発達	4. ファイナンシャル・マネジ メント	4. 良好な関係	4. ワードローブ計画と購入
	5. しつけ		5. デートする関係と誠実さ	5. ファッションの歴史
	6. 児童虐待と育児放棄	5. 消費者権利と責任	6. 結婚と家族生活	6. アパレル分析
	7. 健康と安全	6. 政府の役割	7. 子育てスキル	7. 特別なケアを要する人のためのアパレル
	8. 学習、遊び、レクリエーション	7. マーケットプレイスの機能	8. 主な人生の転換点	8. テキスタイル
	9. 文化多様性	8. 経済概念	9. 争いごとと危機	9. 被服製作
	10. 特別なケアを必要とする子ども	9. 経済システム	10. ファミリーサービスとヒューマンサービスに関する職業	10. 衣服のリフォームとリサイクル
	11. 子どもに影響を及ぼす変化	10. 世界経済		11. 補正
	12. 児童の発達と教育に関する職業	11. 消費者サービスに関する職業		12. ファッションデザイン、製造、販売に関する職業
領域	食品と栄養	住居とファニッシング	個人と家族の健康	
スタンダード	1. 栄養と健康	1. ハウジングデザイン	1. 健康と安全	
	2. 食品の安全と衛生	2. 家具、家事用品、設備	2. メンタルウェルネス	
	3. 設備と道具	3. 安全で健康な生活環境	3. ストレスマネジメント	
	4. 食事管理	4. デザインの要素と原理	4. 栄養と身体システム	
	5. 食事の準備	5. 色彩理論	5. 責任ある行動	
	6. 食事のサービスとエチケット	6. 空間計画	6. 仲間からのプレッシャー	
	7. 食文化	7. 生活環境におけるテキスタイルと材料	7. 感染する病気と感染しない病気	
	8. 食品科学と栄養科学	8. 住居と家具のスタイル	8. 救急処置と備え	
	9. 食料生産とテクノロジー	9. インテリアデザイン、家具、メンテナンスに関する職業	9. 健康と環境	
	10. フードサービス、食品科学、食事、栄養に関する職業		10. 地域の保健医療サービス	
		11. ファミリーサービスとヒューマンサービスに関する職業		

(1) 児童発達とガイダンス (Child Development and Guidance)

この領域では、12のスタンダードが設定され、以下の内容を生徒が理解することを規定している。「1.責任ある育児」のスタンダードでは親の意思決定と責任、「2.子ども理解」では子どもの発達や子ども発達研究で用いる方法について学習することの重要性、「3.胎児の発育」においては、妊娠から出産までの胎児の発育段階や、子どもの健康状態に及ぼす環

境と遺伝因子の関係を理解することとしている。「4.子どもの成長と発達」では、幼児期から青年期までの子どもの発達段階と、発達的に適切な行動を子どもに与える意義、「5.しつけ」では、子どもの発達段階に適切して自己価値（self-worth）を認めることを促すような積極的なガイダンスとしつけテクニックについて理解させることとしている。「6.児童虐待と育児放棄」では、子どもへの虐待やネグレクト（育児放棄）をもたらす要因と虐待やネグレクトを受けている子どもを助けることの重要性、「7.健康と安全」では子どもの健康と安全を高めるための要因と実践、「8.学習、遊び、レクリエーション」では幼児・子ども・青年に学習・遊び・レクリエーションを与える価値と方法、「9.文化多様性」では、育児に関する様々な文化・伝統と慣習を学ぶことや子どもと家族の相互関係における子どものバックグラウンドに配慮することの重要性を学ぶこととしている。「10.特別なケアを必要とする子ども」では、身体的・学習障害のある子どもやギフテッド・チャイルドなど特別なニーズのある子どもをケアするための貢献と配慮、「11.子どもに影響を及ぼす変化」では、どのような変化が幼児・児童・青年に影響するか、また、そのような変化に適合する方法のための特別な方法を用意することなどを理解することとしている。

この領域の最後のスタンダードには、「12.児童の発達と教育に関する職業」に関して理解することが示されている。

（2）消費者教育（Consumer Education）

この領域では 11 のスタンダードが示され、以下の内容を生徒が理解することを規定している。「1.消費者経済」では個人・家族と国民経済との相互関係、「2.消費者の意思決定」では意思決定モデルを用いた消費者の意思決定のプロセス、「3.消費者の購買」のスタンダードでは、財・サービスをどのように比較評価するかについて理解することとしている。また、「4.ファイナンシャル・マネジメント」では、目標に向かってどのように資金を運用するか、「5.消費者権利と責任」では消費者の資源や権利と責任、「6.政府の役割」では地方・州・国レベルでの経済における政府の役割、「7.マーケットプレイスの機能」では市場の働き、「8.経済概念」では消費者に影響する基本的経済概念、「9.経済システム」では異なる経済システム、「10.世界経済」ではグローバル経済の概念について理解することとしている。

この領域の最後に、「11.消費者サービスに関する職業」に関して理解することをスタンダードとしている。

（3）家族生活とペアレンティング教育（Family Living and Parenting Education）

この領域では 10 のスタンダードが示されている。「1.家族と社会」のスタンダードでは、社会の基本単位としての家族の機能、「2.家族の貢献」では個人の発達への家族の貢献、「3.個人の発達」では、自己概念（self-concept）・個人価値・性格やパーソナリティ・人生哲学を理解することが示されている。「4.良好な関係」は、自己価値や効果的なコミュニケーションを高めることや共通した価値観やゴールをもつこと、そして責任ある行動の上に築かれることを理解することとしている。「5.デートする関係と誠実さ」や「6.結婚と家族生活」への理解や、「7.子育てスキル」においては子育てや子どもの指導に必要なスキル、「8.主な人生の転換点」ではライフサイクルを通して主な人生の転換点への適応、「9.争いごとと

危機」では、争いごとや危機に対処するための戦略や資源についての理解することとしている。

そして、この領域の最後に「10.ファミリーサービスとヒューマンサービスに関する職業」に対して理解することとされている。

(4) ファッション、テキスタイル、アパレル (Fashion, Textiles, and Apparel)

この領域では 12 のスタンダードが示されている。「1.アパレルと行動」では、ファッション・テキスタイル・アパレルが、個人・家族メンバの社会的・身体的・心理的なニーズにかかわっていることを理解することとしている。「2.デザインの要素と原理」ではアパレルに適用するデザインの要素や原理の理解、「3.色彩理論」ではファッション・テキスタイル・アパレルにおける色彩理論や使い方についての理解、「4.ワードローブ計画と購入」では、ワードローブ計画の原則、個人・家族のアパレル購入に影響を及ぼす要因について理解することとされている。また、「5.ファッションの歴史」では、現代衣服の歴史的発展、「6.アパレル分析」では既製服と注文服の品質や店の違い、「7.特別なケアを要する人のためのアパレル」ではアパレルに影響する要因、「8.テキスタイル」では原料繊維・織物や仕上げなどの違いによる特徴、基本的な「9.被服製作」、「10.衣服のリフォームとリサイクル」や「11.補正」の理解も示されている。

最後には、「12.ファッションデザイン、製造、販売に関する職業」のスタンダードをあげている。

(5) 食品と栄養 (Food and Nutrition)

この領域では、10 のスタンダードが示されている。「1.栄養と健康」では栄養の原則を適用することやライフサイクルを通しての健康との関係、「2.食品の安全と衛生」では食品を安全に衛生的に保つための原則、「3.設備と道具」では設備や道具の選択・使い方・安全で能率的な手入れの仕方などを理解することとしている。また、「4.食事管理」における食品の購入や食事管理の原則や「5.食事の準備」、「6.食事のサービスとエチケット」では食事サービスのスタイルや一般的なエチケット、「7.食文化」では文化が食品選択やマナーに影響することを理解することとしている。さらに、「8.食品科学と栄養科学」では、食品の調理と栄養にかかわる科学の原則、「9.食料生産とテクノロジー」では食料生産・加工・流通、そして消費者への食料供給にかかわる技術について理解することが示されている、

最後に、「10.フードサービス、食品科学、食事、栄養に関する職業」のスタンダードがあげられている。

(6) 住居とファニシング (Housing and Furnishings)

この領域では、9 のスタンダードが示されている。「1.ハウジングデザイン」では住宅計画に影響する要因やオプション、「2.家具、家事用品、設備」では家具・アクセサリ・設備の選択や手入れに影響を及ぼす要因、「3.安全で健康な生活環境」では安全で健康的な生活環境の重要性を理解することとしている。また、「4.デザインの要素と原理」では、どのようにデザインの要素や原理が美しく快適な生活環境をつくるために使われるか、生活環境にかかわる「5.色彩理論」、「6.空間計画」に影響する原則や要因を理解することとしている。「7.生活環境におけるテキスタイルと材料」の特性とメンテナンス、「8.住居と家具

のスタイル」では住居と家具における歴史的スタイルとデザインのトレンドの関係について理解することとしている。

最後のスタンダードに、「9.インテリアデザイン、家具、メンテナンスに関する職業」があげられている。

(7) 個人と家族の健康 (Individual and Family Health)

この領域では 11 のスタンダードがあげられている。「1.健康と安全」では個人のヘルスケアと安全、生活状況における「2.メンタルウェルネス」の重要性、「3.ストレスマネジメント」について理解することとされている。「4.栄養と身体システム」では、健康な身体の維持・病気の予防や健康増進のために良い栄養が重要であること、「5.責任ある行動」では最適な健康状態にするために責任ある行動をすることの重要性、「6.仲間からのプレッシャー」では仲間からのプレッシャーが行動や健康状態にどのように影響するかを理解することとされている。また、「7.感染する病気と感染しない病気」では感染症や病気の予防・ケア・コントロール、「8.救急処置と備え」では安全を高める方法や救急処置の備えが重要であること、「9.健康と環境」では健康や良好な状態に影響する環境状態、身体・精神的健康維持のための「10.地域の保健医療サービス」について理解することとしている。

最後に、「11.ファミリーサービスとヒューマンサービスに関する職業」のスタンダードが示されている。

4. まとめ

職業教育に力点が置かれている米国カリフォルニア州の家政教育プログラムの中で、9-12 学年あたりで行われる CFS プログラムのスタンダードについて整理を行った。全 7 領域に分かれており、すべての領域のスタンダードの最後にはその領域に関する職業のスタンダードが示されていたことが特徴的であった。これは、CFS プログラムの先にある職業教育である HERO プログラムと CFS プログラムの各領域が結びついているためである。この点において、生活者の育成に力点を置いているわが国の家庭科とは異なり、この領域を専門的に習得した先にどのような職業に就けるのかということを確認に提示して、家庭の内容のスタンダードが設定されていた。CFS プログラムがカバーする領域そのものは、わが国の中学校・高等学校家庭科で取り扱う領域と違いはなかったものの、領域区分の仕方やその中のスタンダードの設定において大きく異なっており、わが国の家政教育のさらなる発展を考える上で参考になる情報が多く含まれるのではないかを思われた。

引用文献

1) National Association of State Administrators for Family and Consumer Sciences.

“National Standards for Family and Consumer Sciences Education”,

<http://www.nasafacs.org/national-standards-home.html>, (参照 2013-12-01)

- 2) 国立教育政策研究所. “アメリカ合衆国.”家庭科のカリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向—（「教科等の構成と開発に関する調査研究」研究成果報告書（22）. 2005, 5-7, <http://www.nier.go.jp/kiso/seika2/kateika.pdf>,（参照 2013-04-01）
- 3) 文部科学省.”1 技術・家庭科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方.” 中学校キャリア教育の手引き. 2011, 170-171, http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306832_14.pdf,（参照 2013-12-01）
- 4) California Department of Education. “Challenge Standards for Student Success: Home Economics Careers and Technology, Grades Nine Through Twelve”, 2000, 1-48, <http://www.hartdistrict.org/sierra/pdfs/home%20ec.pdf>（参照 2013-12-01）
- 5) California Department of Education. “Home Economics”, <http://www.cde.ca.gov/ci/ct/he/>,（参照 2013-12-01）
- 6) Bureau of Economic Analysis, U.S. Department of Commerce, GDP by State, http://bea.gov/newsreleases/regional/gdp_state/2013/pdf/gsp0613.pdf,（参照 2013-12-01）